

# 外国語指導助手に ジェニファー・アン・フレンチさん

新しい村外国語指導助手に、イギリス、カーディフ出身のジェニファー・アン・フレンチさん（二八）が八月八日付で着任しました。ステイブ・ジャングさんの後任です。

ジェニファーさんは一年間の予定で普代中学校で英語を教えるほか、各小学校にも出掛け、英語の指導をします。ジェニファーさんからのメッセージを皆さんに紹介します。

東京から盛岡に新幹線で来たときに最初に感じたことは、きれいでさわやかな空気、美しい山々、木々に囲まれたゆつたりとした感じでした。暑くて忙し

い東京とは対照的でした。岩手のこの素晴らしい印象は、地域を散策したり、地域の人々と会うたびに広がってきました。

深いことを

三つ上げますと、美しくきれいな自然環境、人口密度の薄さ、人々の親しみやすさです。

まず、第一番目に私は、普代そして切り立った海岸線を取り囲む木の生え茂った山々の自然



普代は自然が美しく  
人々の親しみ深さに感謝

の美しさでありました。そしてまた、ゴミ処理、リサイクルシステムの世界どこにも類を見ないシステムで、この自然環境への配慮は、健康的な生活、美しい国づくりに現れています。

第二番目、普代は日本のほかの地域に比べ、大変人口密度が少なくそれで、混雑したという

てくれます。ここでは、外国人が一人もいないので、ALITとしての私の役割は、大きな街よりバラエティーに富んでいます。

私の仕事の範囲は、普代の人々や役場の職員とお話しして以来、もっともっと興味深くな

最後に普代に住んで、とても幸せです。そしてまた、お祭りに参加したり、地域の人々と同様に日本語や習慣を学ぶことを楽しみにしています。私は、これから教える子どもたちから、たくさん学ぶことができると思

より広い空間を感じます。さらに、普代の人々は東京に比べ、ゆつたりとしていて私と話をしてくれるのに多くの時間を割い

ユーやお祭りに招待されるなどして、そのたびごとに、熱烈な歓迎を受けたりすることを知らず、とても幸せに思っております。

（本文はジェニファーさんが英語で書き、沼田英雄教育長が翻訳したものです）

## 特別養護老人ホーム 「うねとり荘」夏祭り 太鼓や神楽で 大賑わい

8月9日、村特別養護老人ホーム「うねとり荘」（野崎貞信施設長、入所者50人）で夏祭りが行われました。

入所者の家族や関係者など約400人が訪れ、夏祭りを楽しみました。ゲームコーナーやカキ氷、綿あめ、フランクフルトなどの販売コーナーに協力した中高生のボランティアも大活躍。

普代中一年で緑区の大上勇くんは、水ヨーヨーと綿あめの販売を担当。「今日はボランティアに参加できて本当によかったです。体の不自由な人を見かけたら助けてあげたいと思います。」と語ってくれ、久慈商業高三年の宮本里奈さん（堀内）と、宮古北高三年の西香



織さん（同）も「初めて参加しました。車いすを押すのも初めてです。大変だと感じました。これを機会に自分にできることは、協力を惜しまないようにしようと思いました」と口をそろえて話してくれました。

舞台では、鳥居地区の中高生らで組織するうねとり荘の鳥居神楽を披露、夏祭りを盛り上げました。

豪華景品で最後をしめくくったのは盆踊りです。「うねとり荘」入所者らは太鼓の音とともに、ボランティアの人たちに助けられながら輪の中に加わり、手拍子などとりながら、楽しいひとときを過ごしていました（写真）。